

自然と文化科 活動記録

日時	2024年2月16日(金) 10時～12時	担当者
場所	クロスパル高槻8階イベントホール 午前：公開講演会 午後：各種会議	文・写真：寺尾 修
備考	天候：曇り 参加人数1班：21名 2班：18名 3班：20名 4班：17名 部外参加者2名 計：78名	

＜公開講演会＞

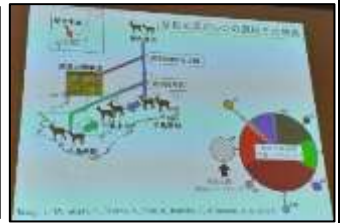
演題：春日神鹿の誕生と奈良公園の鹿垣

講師：渡邊 伸一先生（奈良教育大学教授）

講演要旨：

1) 奈良公園周辺の鹿垣について：神鹿の保護と逸出防止

江戸時代、奈良の町と東部の春日山には、それらをほぼ囲う形で全長 20 km以上に及ぶ鹿垣が築かれていた。現在も道路に関わる柵としてはバッタリ戸として、また農村部への防御柵として一部残存している。但し、鹿から田畑を守ることだけであれば他地区にも同様の鹿垣（獅子垣）が存在する。奈良の場合は神鹿を守ることを意味する。このことが奈良の鹿が他地区の鹿と違う特定の遺伝子を有することに関係する。（鹿の場合は近親交配が負の働きを持たない。）



2) そもそも鹿が「神鹿」とされ、大切に守られてきたのはなぜなのか？

- ・「神鹿」や「騎鹿遷幸神話」の文献上の初見は、実は鎌倉時代であり、奈良時代ではない。

これには鎌倉期の興福寺が大和国の実質的支配であったとはいえ宗教的支配は春日社にあったことが関係する。そこで興福寺は“本地垂迹説（仏法が神法の上位の思想）”を使って春日社（大社という表現は明治期以降）を配下にするようになった。

以下の三つの理由で「騎鹿遷幸神話」が春日社ではなく興福寺であると考えられる。

- ① 鎌倉時代初期には興福寺は若宮社を創建し、「おん祭」を創始したこと。
- ② 「騎鹿遷幸神話」は「興福寺南円堂の本尊：不空羂索観音＝春日明神」ということは本地垂迹説（仏＞神）を一層強め、興福寺の存在を強める。
- ③ 鎌倉初期、鹿を聖獣から神鹿に格上げしたい理由があった。（武士による鹿殺しの多発→大和支配者としての興福寺の権威に傷がつく。）興福寺三ヶ大犯（子供・鹿・僧侶に対する犯罪）で鹿殺しを「聖獣殺し」から「神鹿殺し」すれば極刑の理屈がつけやすい。

以上のように興福寺が大和支配者として権威を保つために「神鹿」として守られた。

＜所感＞

奈良の鹿が神鹿として守られた経緯をよく知ることができた。興福寺と春日大社は江戸期の所領争い、明治初期の廃仏毀釈では興福寺の僧侶が春日大社へ移る等、双方の経緯には興味深いところが多い。

但し、春日大社や興福寺に興味のない方には、やや分かりづらい講演であったかも知れない。

